

議 事 録 要 旨

会 議 名 称	令和2年度 第1回加古川市総合計画審議会（総括部会）
開 催 日 時	令和2年9月1日（火）午後2時00分から午後3時30分まで
開 催 場 所	加古川市役所 新館9階191会議室
出 席 者	<p><委員></p> <p>会長 岸本 敏和</p> <p>副会長 釜谷 和明</p> <p>委員 大庫 隆夫、河野 真、小西 哲也、鹿多 証道、三輪 康一、山本 勝</p> <p><加古川市></p> <p>企画部次長 神戸 生也 企画部参事 竹中 重夫</p> <p>総務部次長 土師 健五 協働推進部次長 栗山 隆博</p>
会 議 次 第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）総合計画（原案）について まちづくりの進め方（P94～99）</p> <p>（2）各部会における審議内容について</p> <p>（3）その他</p> <p>3 閉会</p>
会 議 資 料	<p>1 次第</p> <p>2 資料1 加古川市総合計画（原案）抜粋（P97～98）</p> <p>3 資料2 加古川市総合計画審議会の各部会における審議経過</p> <p>4 資料3 （部会別）加古川市総合計画（原案）修正案一覧</p> <p>5 資料4 （部会別）主要な意見（案）一覧</p> <p>6 加古川市総合計画（原案）</p>
傍聴者の数	1人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	<p>1 開会</p> <p>（委員の出席状況）</p> <p>総括部会委員8名中、7名の委員が出席していることを報告。（※報告後、遅れて1名出席）</p>

	<p>2 議事</p> <p>(1) 総合計画（原案）について</p> <p>まちづくりの進め方</p> <p><u>施策①多様な主体と行政との協働（P94～95）</u></p>
(事務局)	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
(委員)	<p>各地域においても人口が減少する中で、生涯学習社会を実現し、その学びの中で人と人のつながりを作っていくことが、まちづくりの本来の考え方ではないか。このことから、今後、各学校では、「学校を核としたまちづくり」という考え方のもと、子どもたちへの教育が行われていくこととなる。</p> <p>加古川市では、来年度からすべての学校でコミュニティ・スクールが導入されることに加え、従来の中学校区連携ユニット12の取組もある。そのような取組が、まちづくりの中で生かされるようになれば、市長部局と教育委員会が協力したまちづくりを進められるのではないかと。</p>
(事務局)	<p>コミュニティ・スクールに関する記載は、基本目標1の「心豊かに暮らせるまち」において記載しているところであるが、ご意見の趣旨については、まちづくりの観点から記載について検討させていただきたい。</p> <p>なお、学校を核としたまちづくりに関して、原案の45ページで、近隣住区は概ね小学校区、基幹的住区は概ね中学校区と同様の範囲としていることから、学校は各地域のまちづくりにおける一つの拠点であると考えている。</p> <p><u>施策②シティプロモーションの推進（P96）</u></p>
(事務局)	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
(委員)	<p>施策の方向性「●戦略的な情報発信」について、「市の主な取組に関する市民の認知度が低い状況」とあるが、根拠があれば教えてほしい。</p> <p>また、施策の方向性「●魅力の再発掘、育成」について、「市民にも十分に知られていない魅力的な地域資源や人材が多く存在」しているとある</p>

<p>(事務局)</p>	<p>が、どのような人材を想定しているのか。</p> <p>平成30年度から、市民意識調査の中で、市の主な取組に関する認知度を測っている。例えば、「見守りカメラ」、「棋士のまち加古川」という取組については認知度が60パーセントを超えているが、「見守りサービス」、「ウェルビーポイント制度」など認知度が20パーセント程度となっているものもある。</p> <p>このような状況を踏まえ、まずは市の取組を市民の皆さまに知っていただくことが重要であると考えている。</p> <p>次に、「魅力的な人材」について、一例を挙げるとすれば、本市が平成29年度に「PIECE OF KAKOGAWA」という冊子を作成し、市内でご活躍されている人を特集したことがあるが、そのような人材をイメージしている。</p> <p style="text-align: center;"><u>施策③効果的・効率的な行財政運営（P97～98、資料1）</u></p>
<p>(事務局)</p>	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
<p>(副会長)</p>	<p>職員の能力向上に関連し、以前は市の若手職員と市内で活動されている同年代の方々との交流が盛んにあり、まちづくりについての様々なアイデアが生まれたりしていたと感じている。そのような取組は、地域の活性化につながるため、ぜひお願いしたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>施策の方向性「●経営基盤の堅持」については、どの時代にも求められてきたものであり、表現の工夫が必要ではないか。</p> <p style="text-align: center;"><u>施策④広域的なまちづくりの推進（P99）</u></p>
<p>(事務局)</p>	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
<p>(副会長)</p>	<p>「広域的」の範囲は、加古川市、高砂市、稲美町及び播磨町の2市2町との理解でよいか。</p>

(事務局)	<p>「広域的」の範囲としては、ご意見にあったもののほか、8市8町（姫路市、加古川市、相生市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、赤穂市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町）で構成する播磨圏域連携中枢都市圏や、さらに広い範囲の関西広域連合など、多様な範囲を想定しており、2市2町に限定したものではない。</p>
(委員)	<p>施策の方向性「●広域的な都市間連携の推進」に関し、公共交通を広域的に捉えていく必要はないのか。</p>
(事務局)	<p>公共交通の分野については、これまでに2市2町の枠組みの中で新たな取組について検討したことはあるが、具体化するまでには至らなかったため記載していない。</p>
(委員)	<p>医療の分野においては、東播磨地域の3市2町（明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町）を一つの圏域としており、誤解を招きかねないため、2段落目は具体的な市町名は記載せず、「近隣の市町」というような表現のほうがよいのではないのか。</p>
(事務局)	<p>医療分野においては、ご意見のとおり、東播磨地域が一つの圏域であることは承知している。</p> <p>原案に記載している夜間・休日一次救急医療定点化については、広域的な都市間連携の現状における取組として記載していることから、市町名を具体的に記載している。</p> <p>(2) 各部会における審議内容について</p> <p>第1部会（教育・環境）</p> <p><部会長から審議内容等について報告></p> <p>基本目標1 心豊かに暮らせるまち（要点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策「結婚・出産・子育ての支援」については、活発に意見交換を行う中で、「このまちで子育てしたい」と思ってもらえるようなまちにしたいという共通認識を持つことができたと感じている。 ・施策「就学前教育・保育の充実」については、保育士の確保こそが本市における喫緊の課題であり、保育士の処遇面にまで議論が及んだ。 ・施策「教育環境の充実」については、スマートフォンの普及に伴うトラブルやいじめなどの問題に対し、子どもだけでなく保護者

も含めた情報モラル教育が必要だという意見で一致し、より学校と地域が連携することが必要であることを確認した。

基本目標5 うるおいのあるまち（要点）

- ・施策「地球環境の保全」については、「かんきょう出前講座」の実施などに関し、コロナ禍においても子どもの学びを止めてはならないというご意見をいただき、今後もオンラインを活用した教育の推進に取り組みられるよう強い要望も出されている。
- ・施策「環境美化の推進」では、市としてモラルの向上を図ることはもちろん、子どもと大人と一緒に学ぶことが大事だというご意見もいただいた。

総括（要点）

- ・各委員がそれぞれの専門性を発揮し、忌憚のないご意見がいただけたものと感じている。
- ・総合計画に基づく取組がうまくいかなかったとき、課題を背負うのは子どもたちである。今後は、子どもと大人、学校と地域がともに学ぶ仕組みが必要だということが、部会の中で話し合われた。
- ・人生100年時代の中で成長する加古川市として、市民が一丸となって子どもを育てるまちをめざすという方向性が感じられる部会となった。

<資料3-1に基づき、事務局から第1部会です承された原案修正案について報告>

(質疑等なし)

第2部会（福祉・健康）

<部会長から審議内容等について報告>

基本目標2 安心して暮らせるまち（要点）

- ・審議した施策は、いずれも極めて市民生活に密着した重要なものであると同時に、状況が変化しつつある領域でもあった。例えば、少子高齢化が急速に進む中で、福祉や医療のあり方をどうすべきか。また、お年寄りが特殊詐欺の被害に遭われているケースが増えている中、防犯面でどのように対応すべきかといった議論が行われた。

- ・審議を行ううえで悩ましかった点は、新型コロナウイルス感染症の影響である。市が原案を作成する段階では、コロナ禍が発生したばかりであった。しかしながら、審議会の開催時においては、コロナ禍が大きな影響を与えており、どのようにして市民の安全・安心を守っていくのかについて、総合計画の中でどう落とし込むのかという点で、活発なご意見をいただいたところである。

総括（要点）

- ・あるべき姿や望ましい状況は分かっているが、現実はそれと大きく乖離している。その差をどのようにして原案にまとめていくのかについて、様々なご意見をいただくことができた。
- ・部会に際しては、各委員もそれぞれ事前に学習を進められており、非常に有意義なご意見をたくさんいただいたことに対し、部会長として感謝申しあげたい。

<資料3-2に基づき、事務局から第2部会です承された原案修正案について報告>

(質疑等なし)

第3部会（都市・産業）

<部会長から審議内容等について報告>

基本目標3 活力とにぎわいのあるまち（要点）

- ・農業や商業などの区分ごとで考えるのではなく、産業間の連携に着目し、相乗効果を生み出すという視点で、今後の各施策の方向性を考えなければならないのではというご意見をいただいた。

基本目標4 快適なまち（要点）

- ・防災に関する記載については、土地利用や幹線道路整備、港湾整備など、横断的な視点で検討を進めていく必要であるというご意見をいただいたことが、本目標に関するご意見の特色といえる。

総括（要点）

- ・和やかな雰囲気の中、各委員におかれては熱心に活発なご意見をいただいた。
- ・総合計画という大きな視点で、体系的に施策の方向性をまとめていくにあたり、今後の都市のあり方や新たなニーズを捉えようと

	<p>すると、どうしてもこれまでの施策の枠組みの中からはみ出す部分も出てきているのではないかと感じていた。その点に関し、本部会では、各基本目標における審議内容のとおり、従来の枠組みの中では納まらない部分についてご意見をいただけたことが印象深かった。</p> <p><事務局から第3部会です承された原案修正案について報告></p> <p>(質疑等なし)</p> <p>(3) その他</p> <p>(会長) 地球温暖化など環境面に由来する災害に加え、コロナ禍もあり、大変な時期に審議を行ってきたと感じている。</p> <p>今後、答申をまとめていくこととなるが、コロナ禍によって先行きが見えない中で、審議にいかに苦勞したかについて、少しでも見えてくるようであれば幸いである。</p> <p>特に今年は、非常に暑い中であつたが、各部会におかれては、委員の皆さんで熱心にご議論いただけたことに対し、感謝申しあげる。</p> <p>(委員) 第3部会では、「いつまでもあると思うな、企業とカネ」という言葉を繰り返し申しあげてきた。最近、本市においても、様々な業界で事業から撤退を表明する企業が出てきている。だからこそ、観光面などで、経済界を盛り上げていく努力をしなければならないと感じている。</p> <p>資料3-3、1ページのNo.1、「ご意見等の内容」欄に記載のとおり、産業分野は都市全体の人口問題と深く関連している。このことから、人口が減少し続けている現状のままでは、産業を活性化しようとしてもなかなか難しいのではないかと感じている。</p> <p>そこで、市におかれては、明石市と加古川市を比較分析し、目標設定してはどうかと考えている。本市は、明石市よりも工場は多いと思うが、人口動態を見ると本市の人口は減少し続けている。つまり、人口減少の要因は、産業面以外の別の要素があるのではないかと考えている。</p> <p>明石市においては、JR西明石駅や大久保駅の周辺にマンションが集積しており、非常に住みやすい、通勤しやすいロケーションがあると感じる。また、子育てなど様々な施策を打ち出して人口を増やす努力をしている。さらに、市全体でマスコミをうまく活用してIR*やPR*をしている印象がある。</p> <p>一方で、本市は住みやすい、いいまちであると感じているが、全国的に</p>
--	---

<p>(会長)</p>	<p>は犯罪や事故が多いイメージがついてしまっている。</p> <p>総合計画の策定のように、市の今後の方向性を決めていくことも大事であるが、どのように運用していくのかの検討も重要であると感じている。</p> <p>※ I R : Investor Relations の略で、企業が株主や投資家に対し、財務状況など投資の判断に必要な情報を提供していく活動をいう。</p> <p>※ P R : Public Relations の略で、自社や製品のことを広く一般の方知ってもらい、良好な関係をつくりだすための活動をいう。</p> <p>先ほども申しあげたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、社会経済環境が大きく変わっていく可能性がある。</p> <p>総合計画は、本市の各施策における今後の方針を大局的な視点でまとめていくものであることから、新型コロナウイルス感染症への対応等について、計画にまとめきれない部分もあるため、市においては、今後の取組の中で適時適切に対応していただきたい。</p> <p>様々な展開の検討が必要な時期にきていると思うが、各委員におかれては、よりよいまちづくりに向けて今後ともご協力をお願いしたい。</p> <p>(事務連絡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の開催日は、9月30日(水)午後3時からとする。 ・ 開催通知は、後日送付させていただく。 <p>3 閉会</p>
-------------	---